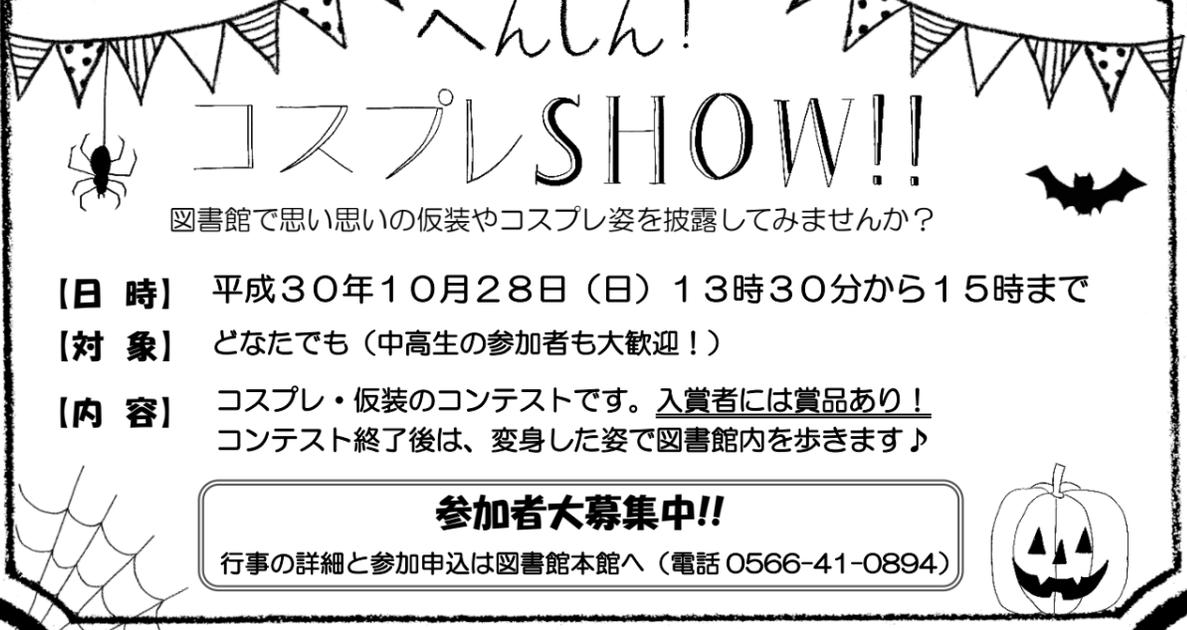


へんしん!
コスプレSHOW!!

図書館で思い思いの仮装やコスプレ姿を披露してみませんか?

【日時】 平成30年10月28日(日) 13時30分から15時まで
【対象】 どなたでも(中高生の参加者も大歓迎!)
【内容】 コスプレ・仮装のコンテストです。入賞者には賞品あり!
 コンテスト終了後は、変身した姿で図書館内を歩きます♪

参加者大募集中!!
 行事の詳細と参加申込は図書館本館へ(電話 0566-41-0894)



休館日

10月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

11月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

■は本館の休館日です

10月のギャラリー

よつば会 作品展

期間: 10月2日(火) ~ 30日(火)
 ※ギャラリーの展示は17時までです

編集後記

一度だけ海外に行った事があります。町の中心には大きな茶色い川が流れ、どのお店にも乾燥しきった魚と思しき干物が山のように積み、土ほこりと何かが発酵したかのような匂いが漂っており、初海外旅行の自分はカルチャーショックを受けました。本もSNSも全ての情報が得られるわけではありません。百聞は一見にしかず。本当に知りたいことがあれば、扉を開いて一歩踏み出してみてください。(か)

けやきどおり通信 (No.301)

編集・発行 碧南市民図書館

〒447-0057
 碧南市鶴見町1-70-1
 Tel: (0566) 41-0894



けやきどおり通信



2018年10月 ~ No.301 ~

BEGINNING
 A NEW
 Journey

本で開く
 世界への扉

今回の特集の目的は、世界の国々の文化を図書館の本で知ってもらおう! です。インターネットで検索すれば欲しい情報はすぐ手に入り、SNSのおかげで世界中の人と友達になれる時代に、あえて、本という情報源から世界を見れば、新しい発見があるかもしれませんよ。さあ図書館から世界へ!

「My Room」 John Thackwray/著 ライツ社 (748マ)

6年間で世界55カ国、1,200人の若者たちの部屋を撮影し、その中から84人の写真とインタビューを掲載。アンデスの人里離れた村で暮らす女性の部屋、いまなおカースト制度に縛られている男性の部屋など、彼らが暮らす部屋からは個人の性格や嗜好だけでなく、生まれ育った国の文化や歴史の違いまでも垣間見える。各国の若者を取り巻く環境は、不公平で、決して恵まれた状況とは言えない中でも、「My Room」の中心でカメラを見上げる表情が印象的な写真集。

MENU



「SAPEURS」

ダニエーレ タマーニ/著 宮城 太/訳 青幻舎 (383.1 円)

コンゴ共和国の首都郊外に、色鮮やかなハイブランドのスーツを着こなし、人々の羨望と尊敬を受けながら町を闊歩する紳士たちがいる。彼らは「SAPEURS (サプール)」と呼ばれ、フランス的エレガンスへの憧れを原動力に、平日は普通に働き、そこで得た収入のほとんどを洋服やアクセサリーに費やす。スタイルにあわせた服を選び、美しい色の調和を生み出して、自らを芸術と称する男たちの姿を捉えた写真集。最近、洋服を選ぶのが面倒だと思っている人やもっとおしゃれになりたいと思っている人におすすめ。



「マサイのルカがスマホで井戸を掘る話」

ルカ サンテ、GO羽鳥/著 学研プラス (389 円)

マサイ族の戦士・ルカは、取材で村を訪れたネットニュースの編集長に、壊れた井戸を修理するための資金援助を依頼するも「自分で稼げ!」と断られる。後日、編集長からルカに1台のスマホが送られてきた。読者の興味を引くようなネタを探してネットニュースで連載し、その原稿料で「水を作れ」と言われたのだ。マサイ族史上初のライターとなったルカが、自分で稼いだ原稿料だけで井戸を復活させるという伝説を達成するまでのエピソードと、マサイ族のリアルな日常を綴った一冊。

「アラスカへ行きたい」石塚 元太良、井出 幸亮/著 新潮社 (295.3 円)

イヌイト以外にも多種多様な先住民がいたこと、ゴールドラッシュに沸いた歴史、シーカヤックにアラスカングルメやファッションなど、様々なキーワードを元に“北の大地・アラスカ”の魅力を、豊富や写真やイラストで紹介する刺激的なカルチャー・ガイド。現地での服装や交通手段、熊対策など、出掛ける前に読んでおきたい“アラスカ旅の手帖”も収録。冒険に行きたいと思っている人におすすめ。



「チェコの十二月 おとぎの国に暮らす」出久根 育/著・絵 理論社 (915 円)

自然と親しみ、昔からの風習や行事を大事にするチェコの人々とその暮らしぶりを、プラハ在住の日本人画家が綴ったエッセイ集。書き下ろしイラストも多数収録。

「奇怪ねー台湾 不思議の国のゆるライフ」

青木 由香/著 黄 碧君/訳 東洋出版 (302.2 円)

いらないと言っても食べ物をどんどん勧めてくる、人前でも平気でオナラをする、炊飯器から冷蔵庫まで何でもカバーをつけたがる、病院と薬が好き、など、台湾人のちょっと不思議な行動を、日本人の視点からざっくばらんに紹介。失敗を恐れず、他人がどう思うと自分の気持ちに素直な台湾の人々の姿は、周囲の評価や視線を気にし過ぎてややお疲れ気味のあなたを癒してくれる…かもしれません。

「キッチンハイク! 突撃!世界の晩ごはん」

山本 雅也/著 集英社 (383.8 円)



VEGETABLES



FISH

「キッチンハイク」とは、旅先の見知らぬお宅を訪ね、一緒にごはんを食べること。国籍や宗教、文化が異なっても、同じ釜の飯を食べれば、みんな自然と仲良くなって楽しくなるはず!と考えた著者が、450日かけて世界中を「キッチンハイク」して見つけたものとは…。



CHEESE



MEAT

「スペインまるごと全17州おいしい旅」

秦 真紀子/著 産業編集センター (383.8 円)



WINE



PASTA

パエリアやガスパチョなどスペインの王道料理から知られざる郷土料理まで、在住歴17年の食ガイドのプロがまるごと紹介。約3ヶ月かけて全州をめぐり、生ハムやチーズに野菜など、料理に使われる食材の生産者にまで取材して集めた、スペインのおいしい情報が満載の一冊。

「翻訳できない世界のことば」

エラ フランシス サンドース/著・イラスト 前田 まゆみ/訳 創元社 (804 円)

日本語の「侘び・寂び」のように、他国の言語で置き換えようとする一言ではうまく表現できない、独特のニュアンスを持ったことばを世界中から集めて、おしゃれなイラストとともに紹介。例えば、フィンランド語には「トナカイが休憩なしで、疲れず移動できる距離」という意味のことばがあるように、各国の文化や国民性がことばにも表れているのが発見できて面白い。

「世界の美しい色の祭り」渡部 隆宏/著 エクスナレッジ (386 円)

数百万人が集まるイベントから小さな集落の伝統行事まで、数あるお祭りの中でもビジュアル面で印象的なものを選び、美しい写真とともに色別に紹介。